



小林 登「子ども学」賞を創設

～学際的な子ども研究・実践を顕彰～

「子どもは未来である」。日本子ども学会の創設者である小林登先生は、子どもを尊重する社会であれば、私たちの未来はつねに明るいものになると考えておられました。2019年のご逝去まで、ご専門の小児医学を超えて、幅広い分野の学問に関心をもたれ、子どもの幸せに配慮した社会をつくることに尽力されました。このような小林先生の志を次世代につなぐために、日本子ども学会では2023年に、そのお名前を冠した学術賞を創設することにいたしました。

◆ 小林 登「子ども学」賞

<賞の趣旨> 本賞は、自然科学や人文科学を包括し、子どもにかかわる学際的・環学的な学問領域において、子ども研究を深め創発する業績、並びに、子どもの生活環境を豊かにする成育デザインの開発や子どもの問題の解決に寄与する実践などに、すぐれた業績を挙げた人々（個人あるいは団体）を顕彰するものである。これにより、人間科学に関する多領域の関係者でその成果を共有し、小林登先生が提唱された「子ども学」への関心を高め、子どもの幸せに資する知識の深化や社会システムの構築につなげていくことを目的とする。

● 賞の名称

小林 登「子ども学」賞

● 賞の内容

記念盾 賞金5万円

● 授賞対象

個人またはグループによる研究業績、実践活動

● 推薦・審査方法

日本子ども学会の会員に対して、受賞候補者（個人またはグループ）の推薦を募ります。推薦書の用紙は、2022年11月以降、本学会のホームページからダウンロードいただけます。推薦者は、候補者の情報および推薦理由を推薦書に記入し、小林登「子ども学賞」運営委員会へご提出ください。推薦された受賞候補者（個人またはグループ）を、審査委員会が慎重かつ厳正に審査し、本学会理事会で受賞者を決定します。

● 受賞の条件

受賞者は学会員に限定しない。
ただし、日本子ども学会員の推薦があること。

● 主なスケジュール

2022年11月 ▶ 候補者の推薦書類受付を開始
2023年3月 ▶ 候補者の推薦書類受付締め切り
2023年4～9月 ▶ 審査委員会で審査
2023年9月 ▶ 受賞者の決定と発表
2023年 秋 ▶ 「子ども学会議」で第1回の授賞式開催

<問い合わせ先>

日本子ども学会 小林 登「子ども学」賞係

詳細は日本子ども学会のホームページをご覧ください（推薦を希望される会員の方は、推薦書をダウンロードください）。
なお、お問い合わせにはメールでご返答差し上げます。

<https://kodomogakkai.jp> E-mail:kodomo-post@bunken.co.jp

<日本子ども学会>

「子ども学」の発展普及のために2003年設立。自然科学から人文科学に至るまで幅広い分野の研究者や実践家が集う開かれた学会をめざす。毎年学術集会である「子ども学会議」を実施。年2回学術誌として『チャイルド・サイエンス』を発行。2019年日本学術会議協力学術研究団体に指定される。



小林 登 (1927-2019)

日本子ども学会初代理事長、後に名誉理事長。東京大学名誉教授。国立小児病院名誉院長。「子ども学」を提唱し、子どもに関する学際研究のコーディネーター役を果たした。海外の研究者とも幅広いネットワークをもち、領域を問わず、子ども研究を豊かにする研究者たちとの交流を深めた。

1927年東京生まれ。海軍兵学校を経て、1954年東京大学医学部医学科卒業。米英留学後、1970年東京大学医学部小児科教授。1980年国際小児科学会会長。1984年国立小児病院小児医療研究センター初代センター長。1987～96年国立小児病院院長。1996年よりインターネットによる子ども学研究を推進するチャイルド・リサーチ・ネット所長。2003年に日本子ども学会を創設。多くの政府委員、学会役員を務めた。